

**【表紙】**

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	北陸財務局長
【提出日】	平成27年7月24日
【事業年度】	第56期（自平成26年5月1日至平成27年4月30日）
【会社名】	株式会社共和工業所
【英訳名】	KYOWAKOGYOSYO CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山口 真輝
【本店の所在の場所】	石川県小松市工業団地一丁目57番地
【電話番号】	0761(21)0531
【事務連絡者氏名】	管理部長 濱中 秀三
【最寄りの連絡場所】	石川県小松市工業団地一丁目57番地
【電話番号】	0761(21)0531
【事務連絡者氏名】	管理部長 濱中 秀三
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第 52 期	第 53 期	第 54 期	第 55 期	第 56 期
決算年月	平成23年 4 月	平成24年 4 月	平成25年 4 月	平成26年 4 月	平成27年 4 月
売上高 (千円)	-	10,586,768	7,631,747	8,092,502	7,741,726
経常利益 (千円)	-	1,475,901	736,029	632,515	599,249
当期純利益又は当期純損失 ( ) (千円)	-	837,395	440,844	378,367	883,420
包括利益 (千円)	-	832,503	722,514	422,293	661,630
純資産額 (千円)	-	8,954,315	9,574,571	9,894,941	9,131,246
総資産額 (千円)	-	11,558,952	11,150,264	11,594,533	10,817,936
1株当たり純資産額 (円)	-	1,318.21	1,409.64	1,456.82	1,344.43
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 ( ) (円)	-	123.28	64.90	55.71	130.06
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	-	77.5	85.9	85.3	84.4
自己資本利益率 (%)	-	9.7	4.8	3.9	9.3
株価収益率 (倍)	-	6.80	10.79	14.22	-
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	481,563	1,024,809	992,560	911,379
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	665,264	875,239	606,308	446,449
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	102,768	246,697	241,170	52,188
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	-	1,840,260	1,816,959	1,984,573	2,542,661
従業員数 (人)	-	277	282	300	301
(外、平均臨時雇用者数)	(-)	(31)	(31)	(31)	(28)

(注) 1. 第53期より連結財務諸表を作成しているため、それ以前については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含まれておりません。

3. 第53期から第55期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式がないため記載しておりません。

4. 第56期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は1株当たり当期純損失であり、また潜在株式がないため記載しておりません。

5. 第56期の株価収益率については、当期純損失であるため記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第 52 期	第 53 期	第 54 期	第 55 期	第 56 期
決算年月	平成23年 4 月	平成24年 4 月	平成25年 4 月	平成26年 4 月	平成27年 4 月
売上高 (千円)	10,995,251	10,652,029	7,625,758	7,733,098	7,477,852
経常利益 (千円)	1,735,988	1,503,983	803,206	633,387	729,963
当期純利益又は当期純損失 (千円)	1,067,836	862,840	499,109	385,554	495,191
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	7,867	-	-	-	-
資本金 (千円)	592,000	592,000	592,000	592,000	592,000
発行済株式総数 (株)	6,800,000	6,800,000	6,800,000	6,800,000	6,800,000
純資産額 (千円)	8,097,234	8,793,907	9,280,073	9,468,240	8,949,910
総資産額 (千円)	11,706,567	11,353,318	10,858,306	11,125,233	10,622,441
1株当たり純資産額 (円)	1,192.03	1,294.59	1,366.29	1,394.00	1,317.73
1株当たり配当額 (円)	15.00	15.00	15.00	15.00	15.00
(内 1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 (円)	157.20	127.02	73.48	56.76	72.90
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	69.2	77.5	85.5	85.1	84.3
自己資本利益率 (%)	14.2	10.2	5.5	4.1	5.4
株価収益率 (倍)	7.63	6.60	9.53	13.95	-
配当性向 (%)	9.5	11.8	20.4	26.4	-
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,558,119	-	-	-	-
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	339,230	-	-	-	-
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	286,644	-	-	-	-
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,856,460	-	-	-	-
従業員数 (人)	257	258	260	259	263
(外、平均臨時雇用者数)	(30)	(31)	(31)	(31)	(28)

- (注) 1. 第53期より連結財務諸表を作成しているため、持分法を適用した場合の投資利益、営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー及び現金及び現金同等物の期末残高は記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 第52期から第55期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式がないため記載しておりません。
4. 第56期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は1株当たり当期純損失であり、また潜在株式がないため記載しておりません。
5. 第56期の株価収益率及び配当性向については、当期純損失であるため記載しておりません。

## 2【沿革】

昭和36年12月	石川県小松市八日市町地方において、建設及び工作用機械の部品製作及び販売を目的として株式会社共和工業所を設立。
昭和40年6月	石川県機械工業専門工場に指定されたのを契機に、板金部門を廃し、ボルト専門メーカーへ移行。
昭和43年12月	本社、工場を石川県小松市安宅新町に移転。
昭和44年3月	六角ボルト、六角穴付ボルトの「JIS」表示許可工場の認可。
昭和46年11月	工場を増設し国内最大クラスの冷間鍛造設備ボルトホーム機を導入。
昭和47年7月	株式会社小松製作所のトラックシューボルトの大量受注。
昭和50年3月	冷間鍛造製法による皿根角ボルトを開発し大幅な合理化を図る。
昭和51年12月	全社的品質管理(TQC)を導入、TQC推進本部を設置。
昭和53年2月	株式会社小松製作所より協力企業で第一号の「小松品質管理賞」を受賞。
昭和55年10月	デミング賞委員会より「デミング賞実施賞中小企業賞」を受賞。
昭和56年3月	隣接地の鉄工団地工場が完成し、冷間鍛造設備ボルトホーム機を増設。
昭和59年3月	中小企業合理化モデル工場として通商産業大臣賞を受賞。
昭和60年8月	株式会社ネツレン小松(現・持分法適用関連会社)へ出資。
昭和63年10月	鉄工団地工場を増設し、冷間鍛造設備ボルトホーム機を増設。
平成3年8月	国内最大クラスの冷間鍛造設備パーツホーム機を導入。
平成5年8月	隣接地の石川県小松市工業団地一丁目57番地に本社事務所を新築及び工場を増設。
平成8年3月	日本証券業協会に株式を店頭登録。
平成9年2月	全社的生産保全(TPM)を導入、TPM推進本部を設置。
平成10年3月	米国品質認定機関より米国ファスナー品質法に基づく試験所の認定取得。
平成11年11月	ISO9001の認証取得。
平成13年10月	TPM優秀賞第2類を受賞。
平成14年10月	ISO14001の審査登録。
平成15年11月	日本社事務所を取り壊し、自動車関連部品専門工場を増設。
平成16年8月	近隣地に西南工場を新設し、熱間鍛造部門を移転。
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場。
平成19年5月	隣接地の石川県小松市安宅新町に工場用地を取得。
平成19年12月	隣接地に自動車関連部品専門工場を新設し、自動車関連部品切削加工部門を移転。
平成20年4月	隣接地の石川県小松市安宅新町に工場用地を取得。
平成20年10月	工場を増設し、冷間鍛造設備太径用ボルトホーム機を移設。
平成21年2月	工場を増設し、冷間鍛造設備細径用ボルトホーム機を移設。
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQに上場。
平成22年10月	共和機械(山東)有限公司(現・連結子会社)を設立。
平成24年4月	共和機械(山東)有限公司工場建屋完成、本格稼働開始。
平成25年7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の現物市場の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に上場。

### 3【事業の内容】

当社グループは、株式会社共和工業所（当社）及び子会社である共和機械（山東）有限公司、関連会社である株式会社ネツレン小松並びにその他の関係会社である有限会社ワイ・エム・ジィにより構成されております。

当社グループは、ボルト専門メーカーとして、六角ボルト、六角穴付ボルト、特殊ボルト等を冷間鍛造及び熱間鍛造により、素材から熱処理までの一貫生産体制で製造し、建設機械、自動車関連、産業機械等の業界向けに販売を行っております。

共和機械（山東）有限公司は、平成22年10月に設立し、平成24年4月より本格操業を開始しました。

株式会社ネツレン小松は当社製品の中の無段変速機用シャフトの高周波焼入加工を行っており、また、有限会社ワイ・エム・ジィとの取引関係はありません。

なお、当社グループは単一セグメントであるため、セグメントごとに記載しておりません。

当社グループの事業部門と事業の内容は次のとおりであります。

#### 建設機械部門

ブルドーザー等の無限軌道の履帯（シュー）やバケット部分（排土板）の締結、さく岩機装置の分割構造を締結する支柱ボルト、パワーショベルの旋回輪の減速機の部品、グレーダーのブレーキの部品等の製造を行っております。

主要製品	六角ボルト	呼び径ボルト、有効径ボルト、全ねじボルト、ワッシャー組み込みボルト
	シューボルト・ナット	超高強度シューボルト（抗張力140kg/mm <sup>2</sup> ）、マスターリンクボルト
	六角穴付ボルト	六角穴付ショルダーボルト
	皿根角ボルト	建設機械用ブローボルト、コンテナ締結用シェーカーボルト
	特殊ボルト	さく岩機装置締結用ブレーカボルト、大型トランスミッション用タイボルト
	その他	スイングマシナリーシャフト、プラネタリーギア、ブレーキピストンピン、ブレーキドラム、ブレーキケージ/サポート、さく岩機用特殊ナット、ヘリサート圧入ナット

#### 自動車関連部門

自動車等に用いられるシャフト部を有しているパーツ部品や変速機用部品の製造を行っております。

主要製品	鍛造品	等速ジョイント用ドライブシャフト、ミッション用インプットシャフト、リアアクスル用スピンドルシャフト、無段変速機用シャフト、パワーステアリング用中空部品、ステアリング用ピニオンシャフト、サスペンション支持用ロッドボルト、ショックアブソーバー用支持シャフト
------	-----	--

#### 産業機械部門

機械部品の締結や中でも狭い部分に埋め込んで用いる締結用ボルトの製造を行っております。

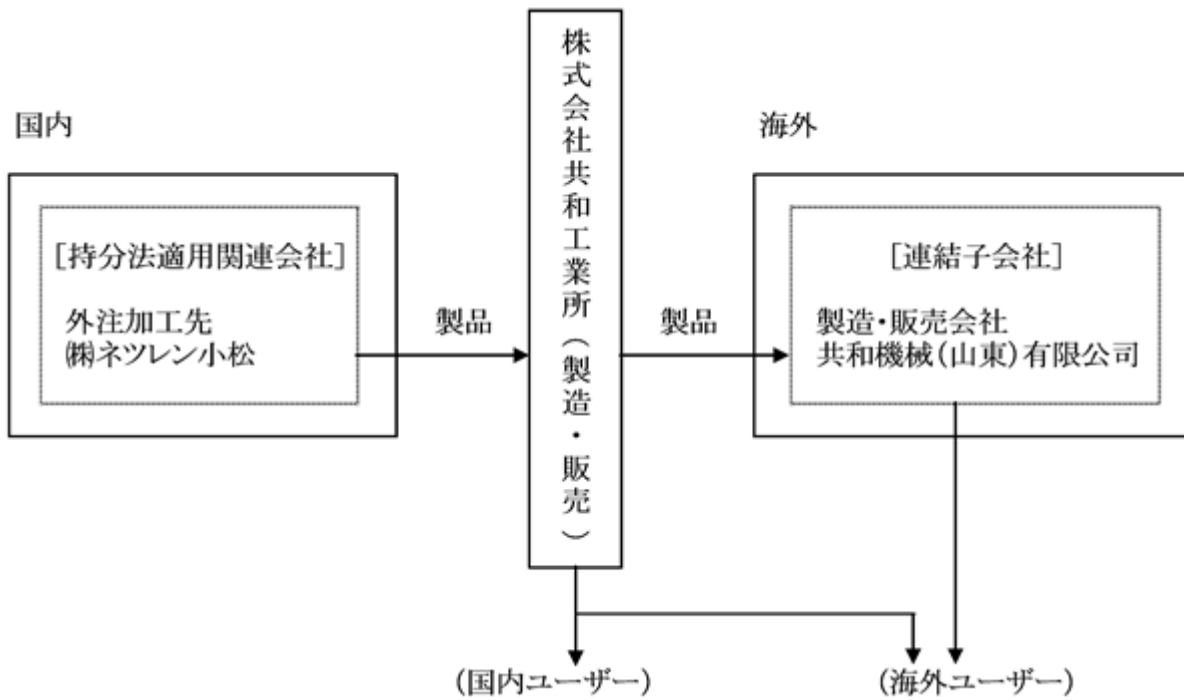
主要製品	六角ボルト	呼び径ボルト
	六角穴付ボルト	J I S 規格六角穴付ボルト（強度区分10.9）

#### その他

船舶や発電機の内燃機関用ボルトや体育館・スタジアム等の大規模建築物用ボルトの製造を行っております。

主要製品	特殊ボルト	大型ディーゼルエンジン用各種機関ボルト、トラス構造建築用トラスボルト、免震構造体用ボルト
------	-------	--

事業の系統図は次のとおりであります。

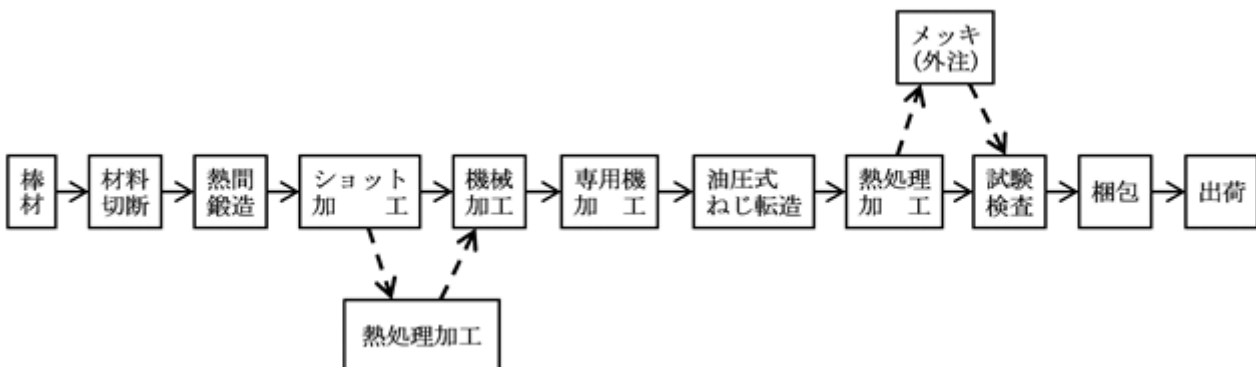


当社グループの主要製品の製造工程は次のとおりであります。

(冷間製法) 六角ボルト、シューボルト、六角穴付ボルト、皿根角ボルトの製造は次の工程で行います。鍛造品は、多段式ホーマ成形で工程を終了いたします。



(熱間製法) 六角ボルトの一部、特殊ボルト、その他ねじ類の製造は次の工程で行います。



#### 4【関係会社の状況】

##### (1) 連結子会社

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
共和機械(山東)有限公司	中華人民共和国 山東省済寧市	千米ドル 16,500	建設機械用ボルト、産業用ボルト、ナット等関連部品の製造・販売	100.0	製品の販売。 資金の貸付。 役員の兼任あり。

(注) 特定子会社に該当しております。

##### (2) 持分法適用関連会社

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
(株)ネツレン小松	石川県小松市	40,000	金属材料及び金属製品の高周波焼入加工	17.5	当社グループ製品の中の無段変速機用シャフトの高周波焼入加工を行っております。 役員の兼務あり。

(注) 持分は100分の20未満ではありますが、実質的な影響力を持っているため、関連会社としたものであります。

##### (3) その他の関係会社

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の被所有割合(%)	関係内容
(有)ワイ・エム・ジィ	石川県小松市	5,000	損害保険代理店業	30.4	取引なし。 役員の兼務あり。

#### 5【従業員の状況】

当社グループは単一セグメントであるため、セグメントごとに記載しておりません。

##### (1) 連結会社の状況

平成27年4月30日現在

従業員数(人)
301(28)

(注) 従業員数は就業人員であり、パート及び嘱託社員は、( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。

##### (2) 提出会社の状況

平成27年4月30日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
263(28)	36.7	13.4	4,710,608

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、パート及び嘱託社員は、( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、税込支払給与額であり、基準外賃金及び賞与を含めております。

##### (3) 労働組合の状況

当社の労働組合は、共和工業所労働組合と称し、昭和35年10月に結成されました。

平成27年4月30日現在の組合員数は228名であり、労使関係は結成以来円満に推移しており特記すべき事項はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

当社グループは、企業体質の強化、改善をはかり、企業の社会的責任をより明確にし、「良い製品を早く、安く、お客様にサービスしていく」との基本方針のもとに、ねじ分野のほか特殊形状圧造部品等、新分野への挑戦に努め、品質第一でお客様の満足度を向上させることを経営の最重要課題と認識し、全社員の幸せと生活の向上をはかり持続的な生き残りを目指しております。

当連結会計年度における我が国経済は、昨年4月の消費税率引き上げの影響を受けつつも、緩やかな回復を続けました。国内における建設機械需要は、建設投資の増加や東日本大震災の復興需要などがありましたが、排ガス規制に伴う駆け込み需要の反動やレンタル需要が一巡した影響を受けました。

一方、海外におきましては、米国経済は緩やかに回復したものの、欧州経済はデフレ懸念が台頭し、中国経済は成長が鈍化した状態が続いたため、今後も先行き不透明な状況となっております。海外における建設機械需要は、米国では住宅着工の持ち直しやインフラ分野の回復により需要が拡大いたしました。中国では不動産投資の鈍化や石炭・鉄鋼価格の低迷により建設機械の需要は減少いたしました。

この結果、当連結会計年度における当社グループの売上高は77億41百万円（前期比4.3%減、3億50百万円減）、営業利益5億29百万円（前期比3.3%減、18百万円減）、経常利益5億99百万円（前期比5.3%減、33百万円減）となりましたが、中国の連結子会社が所有する事業用固定資産の減損処理を実施した結果、当期純損失8億83百万円（前連結会計年度は当期純利益3億78百万円）となりました。

主要な事業部門別の概況は以下のとおりであります。なお、当社グループは単一セグメントであるため、セグメントごとに記載しておらず、事業部門別に区分して記載しております。

#### 「建設機械部門」

建設機械部門の売上高は、国内向け売上57億11百万円（前期比0.9%減、50百万円減）、海外向け売上9億8百万円（前期比19.3%減、2億16百万円減）となりました。

なお、海外向けの売上に関しましては、海外子会社及び商社を通じて販売しております。

#### 「自動車関連部門」

自動車関連部門の売上高は、7億79百万円（前期比1.5%減、11百万円減）となりました。

#### 「産業機械部門」

産業機械部門の売上高は、1億37百万円（前期比15.8%増、18百万円増）となりました。

#### (2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における現金及び現金同等物の期末残高は25億42百万円となり、前連結会計年度末に比較して5億58百万円増加いたしました。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

税金等調整前当期純損失は5億91百万円、減価償却費4億3百万円、減損損失11億90百万円などを計上しましたが、一方で仕入債務の減少67百万円、法人税等の支払額2億72百万円等により、営業活動によって得られた資金は9億11百万円（前期比81百万円減）となりました。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

有価証券の取得に21億99百万円、有形固定資産の取得に2億48百万円、投資有価証券の取得に1億13百万円支出しましたが、定期預金の払戻による収入が16億35百万円、有価証券の償還による収入が5億99百万円あったことから、投資活動に4億46百万円の資金を要しました（前期比1億59百万円減）。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

長期借入による収入が2億50百万円ありましたが、長期借入金の返済91百万円、配当金の支払額1億2百万円等により、財務活動によって得られた資金は52百万円（前期は、2億41百万円の支出）となりました。



## 2【生産、受注及び販売の状況】

当社グループは単一セグメントであるため、生産、受注及び販売の状況については、セグメント情報に代えて事業部門ごとに記載しております。

### (1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門の名称	当連結会計年度 (自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)	前年同期比(%)
建設機械(千円)	6,086,553	93.4
自動車関連(千円)	737,811	94.2
産業機械(千円)	124,467	113.4
その他(千円)	204,482	87.0
合計(千円)	7,153,315	93.6

(注) 1. 金額は販売価格によります。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 受注状況

当連結会計年度の受注状況を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門の名称	当連結会計年度 (自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)			
	受注高 (千円)	前年同期比(%)	受注残高 (千円)	前年同期比(%)
建設機械(千円)	6,619,620	96.1	294	42.9
自動車関連(千円)	779,060	98.5	6	-
産業機械(千円)	137,213	115.9	-	-
その他(千円)	205,446	95.3	-	-
合計(千円)	7,741,342	96.6	300	43.9

(注) 1. 金額は販売価格によります。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門の名称	当連結会計年度 (自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)	前年同期比(%)
建設機械(千円)	6,620,012	96.1
自動車関連(千円)	779,054	98.5
産業機械(千円)	137,213	115.8
その他(千円)	205,446	69.4
合計(千円)	7,741,726	95.7

(注) 1. 金額は販売価格によります。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)		当連結会計年度 (自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
(株)小松製作所	1,695,559	21.0	1,712,088	22.1
コマツ物流(株)	870,221	10.8	805,171	10.4

### 3【対処すべき課題】

当社グループの主力である建設機械業界は、建設投資の増加や東日本大震災の復興需要はありましたが、排ガス規制強化前の駆け込み需要の反動やレンタル向け需要が一巡した影響を受けました。また、海外では資源価格の下落による鉱山向け建設機械の販売は依然低調であり、中国をはじめとした新興国の成長鈍化の影響を受けました。特に中国政府による高度成長から「新常态(ニューノーマル)」への移行表明は、中国に生産子会社を持つ当社にとりましても不安要素であります。中国市場での現在の事業環境および今後の見通しを勘案して、中国の連結子会社が所有する事業用固定資産の減損処理を実施した結果、当連結会計年度における当社グループの業績は、減収減益となりました。

このような事業環境の中で、経営計画を見直し、平成27年5月より平成30年4月までの3年間を対象に、中期経営計画をスタートさせました。

この中期経営計画では、「次の10年に向けた新たな挑戦の為、自ら変革するとともに、顧客ニーズに的確に応える柔軟な体制を構築します」をテーマに取り組んでまいります。

特に、中国子会社である共和機械(山東)有限公司の体制の見直しを進めてまいります。また、中国材の現地調達への取組み強化を図り、受注拡大とコスト削減の実現を目指してまいります。

次に、当社グループの強みである品質、多品種小ロット対応に磨きを加え、一段のコストダウンによる価格競争力を高めてまいります。また、固定費削減により、低成長下においても安定した収益を確保できる企業体質の構築に努めてまいります。

今後も大型の熱間・冷間鍛造の設備と技術を活かし、難加工に対処し営業活動を強力に展開して、建設機械向けや自動車部品の分野で新規需要開拓を進めて売上拡大に努めてまいります。また、生産性の向上、新製品開発と高技術力の蓄積、人的資源の教育強化を図り、技術の優位性と収益性による「事業の選択と集中」を推進し、経営資源を有効活用して競争力の基盤強化を図ってまいります。

今年度は、一昨年秋に購入した本社隣接地3千坪に新工場を建設し、西南工場(本社より西南に約1キロ)の設備を移します。また、西南工場を売却することで作業効率や生産性の向上を図ります。

#### 4【事業等のリスク】

以下の文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末において当社グループが判断したものであります。

##### (1) 建設機械業界に対する依存度が高いことについて

当社グループは従来から、建設機械向け製品の売上比率が高く、内外の建設機械需要の動向に影響を受けやすく、今後もその影響により業績が大きく変動することが考えられます。

このような状況において、業績の安定化をはかるため、引き続き建設機械部門以外の需要分野開拓により収益基盤の拡大をはかります。近年、建設機械向け製品の需要が高く、平成27年4月期の非建設機械部門は14.5%となっておりますが、今後も大型の熱間・冷間の設備と技術を活かし、営業活動を強力に展開していきます。

事業部門別販売実績の推移

事業部門	第52期 平成23年4月期		第53期 平成24年4月期		第54期 平成25年4月期		第55期 平成26年4月期		第56期 平成27年4月期	
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)
建設機械	9,393	85.4	9,105	86.0	6,517	85.4	6,887	85.1	6,620	85.5
自動車関連	1,046	9.5	1,024	9.7	767	10.1	790	9.8	779	10.1
産業機械	230	2.1	160	1.5	110	1.4	118	1.5	137	1.8
その他	325	3.0	295	2.8	236	3.1	295	3.6	205	2.6
合計	10,995	100.0	10,586	100.0	7,631	100.0	8,092	100.0	7,741	100.0

(注) 第53期より連結財務諸表を作成しております。

##### (2) 材料価格の変動について

当社グループの主要材料である鋼材は、国内景気、為替、原油価格等の影響により価格が変動します。材料費の当期総製造費用及び売上高に対する比率は、平成27年4月期でそれぞれ53.4%、42.3%と高く、当社グループの業績は鋼材価格の変動により影響を受けます。

#### 5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

#### 6【研究開発活動】

当社グループの研究開発活動は、塑性加工（冷間鍛造、熱間鍛造）を主体とした、自社工程の合理化、省力化を狙いとした専用機の開発を継続的改善活動業務の中で行っております。したがって、研究開発費として記載すべき重要な金額はありません。

上記の活動は、現在、当社の技術部技術課生産技術係員及び金型技術係員8名が主体となって携わっております。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下の文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末において当社グループが判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループは連結財務諸表を作成するにあたって、重要な見積りや仮定を行う必要があります。重要な会計方針において、これらの重要な見積りや仮定により業績に影響を与える項目は次のとおりであります。

#### 貸倒引当金

売掛債権等の貸倒れに備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。相手先の財政状態が悪化し、その支払能力が低下した場合には、引当金を積み増すことにより、損益にマイナスの影響を与える可能性があります。

#### 繰延税金資産

将来の収益力に基づく課税所得による回収可能性を十分に検討した上で、繰延税金資産を計上しております。繰延税金資産の回収可能性が見込めないと判断した場合には、回収不能と見込まれる金額を見積り、評価性引当額を計上します。この計上により、損益に影響を与える可能性があります。

### (2) 財政状態の分析

当連結会計年度末は、総資産は108億17百万円（前期比7億76百万円減）となりました。

資産の部では、流動資産は69億54百万円（前期比4億69百万円増）となりました。その主な内訳は、現金及び預金が26億27百万円（前期比9億41百万円減）、受取手形及び売掛金が16億44百万円（前期比3億66百万円減）、有価証券が18億円（前期比17億円増）であります。固定資産合計は38億63百万円（前期比12億45百万円減）となりました。その主な内訳は、有形固定資産が22億64百万円（前期比11億46百万円減）、無形固定資産が3百万円（前期比2億23百万円減）、投資その他の資産が15億94百万円（前期比1億24百万円増）であります。

負債の部では、流動負債は9億92百万円（前期比1億35百万円減）となりました。その主な内訳は、買掛金が2億50百万円（前期比65百万円減）、未払金が2億19百万円（前期比1億69百万円減）、未払法人税等が1億35百万円（前期比15百万円増）であります。固定負債は6億93百万円（前期比1億22百万円増）となりました。その主な内訳は長期借入金1億59百万円（前期比1億59百万円増）、役員退職慰労引当金2億19百万円（前期比4百万円増）であります。

純資産は91億31百万円（前期比7億63百万円減）となりました。その主な内訳は資本金5億92百万円、資本剰余金4億64百万円、利益剰余金が71億15百万円（前期比9億85百万円減）であります。自己資本比率は84.4%となりました。

### (3) 経営成績の分析

当連結会計年度は、当社グループの主力である建設機械向け製品は、排ガス規制強化前の駆け込み需要の反動があり、また、中国での販売が落ち込んだため、当連結会計年度の売上高は77億41百万円となりました。

一方経費面は、鋼材価格他の値下がりにより製造原価が減少しました。その結果、営業利益は5億29百万円となりました。

### (4) キャッシュ・フローの状況の分析

当連結会計年度は、営業活動によるキャッシュ・フローが9億11百万円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローが4億46百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが52百万円の収入となりました。

当連結会計年度の各項目の詳細については、「第2[事業の状況]1[業績等の概要](2) キャッシュ・フロー」に記載のとおりであります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループは、当社及び連結子会社である共和機械（山東）有限公司における生産設備等に、1億86百万円の設備投資を実施いたしました。

主な内訳は、新工場建設工事の一部、熱処理炉、工作機械であります。

なお、当社グループは単一セグメントであるため、セグメントごとに記載しておりません。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は次のとおりであります。

なお、当社グループは単一セグメントであるため、セグメントごとに記載しておりません。

平成27年4月30日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
		建物及び 構築物 (千円)	機械装置 及び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
本社・工場 (石川県小松市)	ねじ製造設備	689,641	669,590	670,197 (76,267)	30,968	2,060,399	246 (28)
西南工場 (石川県小松市)	ねじ製造設備	50,124	12,191	91,526 (6,226)	64	153,906	17 (-)

(注) 1. 上記金額は有形固定資産の帳簿価額であり、建設仮勘定は含んでおりません。

2. 帳簿価額の「その他」は、工具、器具及び備品であります。

3. 従業員数は就業人員であり、パート及び嘱託社員は、( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。

#### 3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、新規需要分野の開拓による受注状況等を勘案して策定しております。

なお、当連結会計年度末における重要な設備の新設、除却等の計画は次のとおりであります。

##### (1) 重要な設備の新設

事業所名 (所在地)	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定年月	
		総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了
本社・工場 (石川県小松市)	新工場	427,950	50,598	自己資金及び 借入金	平成26年12月	平成27年7月
	切削加工設備	71,150	-	自己資金	平成27年7月	平成28年4月
	出荷設備	30,400	-	自己資金	平成27年9月	平成27年10月

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

##### (2) 重要な設備の除却等

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額				売却予定年月
		建物及び構築物 (千円)	機械装置 及び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	
西南工場 (石川県小松市)	ねじ製造設備	50,124	542	91,526 (6,226)	64	平成27年8月

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	25,000,000
計	25,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成27年4月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年7月24日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	6,800,000	6,800,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は1,000株であります。
計	6,800,000	6,800,000	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成8年3月28日 (注)	400,000	6,800,000	92,000	592,000	112,000	464,241

(注) 有償・一般募集

入札によらない募集

発行価格 510円

資本組入額 230円

払込金総額 204,000千円

( 6 ) 【所有者別状況】

平成27年4月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	7	8	23	7	-	277	322	-
所有株式数(単元)	-	469	24	2,835	675	-	2,778	6,781	19,000
所有株式数の割合(%)	-	6.92	0.35	41.81	9.95	-	40.97	100	-

(注) 自己株式8,099株は、「個人その他」に8単元及び「単元未満株式の状況」に99株を含めて記載しております。

( 7 ) 【大株主の状況】

平成27年4月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(有)ワイ・エム・ジィ	石川県小松市日の出町3丁目62	2,056	30.2
名古屋中小企業投資育成㈱	愛知県名古屋市中村区名駅南1丁目16-30	522	7.7
共和工業所取引先持株会	石川県小松市工業団地1丁目57	512	7.5
共和工業所社員持株会	石川県小松市工業団地1丁目57	400	5.9
ビービーエイチフォー フィデリティロー プライズドストックファン ド(プリンシパル オールセクター サポート フォリオ) (常任代理人(株)三菱東京 UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A  (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	358	5.3
ステートストリート バンクアンド トラスト カンパニー505224 (常任代理人(株)みずほ 銀行)	P.O.BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A (東京都中央区月島4丁目16-13)	250	3.7
(株)北國銀行	石川県金沢市広岡2丁目12番6号	230	3.4
山口 徹	石川県小松市	193	2.8
日本トラスティ・サービス 信託銀行(株)(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	101	1.5
森本 千枝子	石川県小松市	78	1.2
計	-	4,701	69.1

( 8 ) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成27年 4月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式 (自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式 (その他)	-	-	-
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 8,000	-	-
完全議決権株式 (その他)	普通株式 6,773,000	6,773	-
単元未満株式	普通株式 19,000	-	1 単元 (1,000株) 未満の株式
発行済株式総数	6,800,000	-	-
総株主の議決権	-	6,773	-

【自己株式等】

平成27年 4月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
株式会社共和工業所	石川県小松市工業団地一丁目57番地	8,000	-	8,000	0.12
計	-	8,000	-	8,000	0.12

( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】  
該当事項はありません。



## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	240	182,400
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成27年7月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	8,099	-	8,099	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成27年7月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

### 3【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識しております。配当につきましては、事業計画、財務状況、収益性等を考慮しつつ、企業体質の一層の強化をはかるとともに、安定的な配当の継続を行うことを基本方針としております。

当社では、剰余金の配当は現在、年1回の期末配当を行っております。剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、1株当たり15円を実施することを決定いたしました。

当社は、「取締役会の決議によって毎年10月31日を基準日として中間配当をすることができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成27年7月23日 定時株主総会決議	101	15

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第52期	第53期	第54期	第55期	第56期
決算年月	平成23年4月	平成24年4月	平成25年4月	平成26年4月	平成27年4月
最高(円)	1,200	1,240	840	900	855
最低(円)	598	700	560	698	671

(注) 最高・最低株価は、平成22年4月1日より大阪証券取引所JASDAQにおけるものであり、平成22年10月12日より大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、平成25年7月16日より東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成26年11月	12月	平成27年1月	2月	3月	4月
最高(円)	765	750	735	714	730	760
最低(円)	743	713	694	671	711	705

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5【役員の状況】

男性 9名 女性 -名 (役員のうち女性の比率-%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長 (代表取締役)		山口 徹	昭和20年2月5日生	昭和42年4月 ㈱芝浦製作所入社 昭和46年7月 当社入社 昭和54年7月 同取締役生産部次長就任 昭和57年10月 同常務取締役就任 昭和60年7月 同代表取締役副社長就任 昭和61年7月 同代表取締役社長就任 平成2年3月 アーチャー㈱取締役就任(現任) 平成2年3月 (有)ワイ・エム・ジィ取締役就任(現任) 平成7年5月 ㈱ネツレン小松取締役就任(現任) 平成9年6月 ㈱テレビ小松監査役就任(現任) 平成10年12月 上田運輸㈱取締役就任(現任) 平成22年10月 共和機械(山東)有限公司董事長就任(現任) 平成25年6月 小松ウオール工業㈱取締役就任(現任) 平成26年5月 当社代表取締役会長(現任)	(注)3	193
取締役社長 (代表取締役)		山口 真輝	昭和52年9月29日生	平成15年3月 当社入社 平成22年5月 同経営企画室長 平成22年7月 同取締役経営企画室長就任 平成22年8月 (有)ワイ・エム・ジィ取締役就任(現任) 平成22年10月 共和機械(山東)有限公司副董事長(現任)兼総経理就任 平成24年7月 当社専務取締役経営企画室長就任 平成26年5月 同代表取締役社長就任(現任)	(注)3	31
取締役	生産管理部長 兼生産部管掌	松本 康秀	昭和26年2月23日生	昭和46年4月 当社入社 平成3年5月 同生産副部長 平成9年2月 同TPM推進副本部長 平成10年5月 同生産部長兼TPM副本部長 平成10年7月 同取締役生産部長兼TPM副本部長就任 平成13年11月 同取締役生産管理部長兼生産部管掌就任(現任)	(注)3	52
取締役	生産部長	佐々木 忠	昭和28年8月16日生	昭和47年4月 当社入社 平成13年11月 同生産部長兼保全グループ長 平成16年7月 同取締役生産部長兼保全グループ長就任 平成23年5月 同取締役生産部長兼保全係管掌就任 平成24年5月 同取締役生産部長就任(現任)	(注)3	22
取締役	技術部長	山岸 一英	昭和33年5月5日生	昭和56年4月 当社入社 平成25年5月 同技術部長 平成26年7月 同取締役技術部長(現任)	(注)3	5
取締役	品質保証部長	北嶋 豊昭	昭和35年9月21日生	昭和60年4月 当社入社 平成24年5月 同品質保証部長兼品質保証課長 平成25年5月 同品質保証部長 平成26年7月 同取締役品質保証部長(現任)	(注)3	5

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		笠本 廣業	昭和27年1月7日生	昭和50年4月 ㈱北國銀行入行 平成17年7月 当社管理部長 平成25年7月 当社常勤監査役就任(現任) 平成25年7月 共和機械(山東)有限公司監事就任(現任)	(注)4	5
監査役		小栗 巖	昭和35年5月21日生	昭和58年4月 横山税理士事務所入所 昭和62年4月 小栗税理士会計事務所入所 平成元年12月 (有)小栗経営会計事務所取締役就任 平成2年1月 当社監査役就任(現任) 平成13年12月 (有)小栗経営会計事務所代表取締役就任(現任)	(注)5	28
監査役		板尾 昌之	昭和39年10月28日生	平成2年4月 ㈱板尾鉄工所入社 平成13年7月 ㈱板尾鉄工所取締役 平成19年9月 ㈱板尾鉄工所代表取締役社長(現任) 平成27年7月 当社監査役就任(現任)	(注)5	-
計						342

- (注) 1. 監査役小栗 巖及び板尾 昌之は、社外監査役であります。  
2. 取締役社長山口真輝は取締役会長山口 徹の子であります。  
3. 平成26年7月24日開催の定時株主総会の終結の時から2年間  
4. 平成25年7月19日開催の定時株主総会の終結の時から4年間  
5. 平成27年7月23日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 企業統治の体制

##### ・コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、企業を取り巻く関係者の利害関係を調整しつつ株主の利益を最大限尊重し、企業価値を高めることが経営者の責務であり、経営執行の過程において、取締役会の合議機能、監査役の監視機能あるいは社内の組織・業務分掌における牽制機能などを有効に発揮させることによって、経営の健全性・公平性・透明性を担保することがコーポレート・ガバナンスの基本であると考えております。

##### ・企業統治の概要

当社は、監査役制度採用会社であり、取締役6名（うち社外0名）、監査役3名でうち2名が社外監査役（独立役員2名）であります。

代表取締役を除く取締役は部門長を兼務しております。取締役会は、月1回以上開催され、監査役が出席し、業務執行に係る重要な事項はすべて付議され、経営の妥当性・効率性・公正性等について適宜検討されております。

また、経営企画室が中心となって、各部門の業務の進捗状況、懸案事項等の情報の共有化と相互チェックのため、社長以下取締役、監査役、各部門の責任者で構成する部門診断を月1回程度開催しております。

監査法人、弁護士、税理士等につきましては、それぞれ監査契約、顧問契約を締結して、第三者機関によるコンプライアンスに関するアドバイスを受けております。

監査役は、会計監査人と適宜情報交換を行っております。

##### ・企業統治の体制を採用する理由

当社の企業統治の体制は、事業規模等を勘案したものであり、効率的かつ効果的に機能していると判断しております。

#### ・内部統制システムの整備の状況

当社は、取締役会において次のとおり「内部統制システム構築の基本方針」を定めております。

##### 1. 取締役、使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は、社是（誠意と熱意と創意と奉仕による共存共栄）並びに経営の基本方針に則った「各種管理規程」を制定し、代表取締役社長がその精神を全使用人に継続的に伝達するため、毎月第1営業日に全社員を集め、社長朝礼を行い、法令遵守と社会倫理の遵守を企業活動の原点として徹底する。

また、経営企画室が中心となって、各部門の業務の進捗状況、懸案事項等の情報の共有化と相互チェックのため社長以下取締役、監査役、各部門の責任者で構成する部門診断を月1回開催する。

##### 2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理は、「文書管理規程」に定め、これに従い当該情報を文書又は電磁的媒体に記録し、「文書管理規程」に基づき整理・保存する。監査役は、取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理について、関連諸規程に準拠して実施されているかについて監査する。

##### 3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

「経理規程」「与信限度管理規程」「安全衛生管理規程」等の管理規程により、リスク管理体制を整備している。今後も監査役はリスク管理状況を監査し、その結果を取締役に報告する。取締役会は定期的にリスク管理体制を見直し、問題点の把握に努める。

##### 4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

経営企画室は、中期経営計画及び年次経営計画に基づいた各部門の目標に対し、職務執行が効率的に行われるよう監督する。各部門担当取締役は、経営計画に基づいた各部門が実施すべき具体的な施策及び効率的な業務遂行体制を決定する。取締役会において定期的に報告させ、施策及び効率的な業務遂行体制を阻害する要因の分析とその改善を図っていく。

##### 5. 当該株式会社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

###### a. 子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制

当社は「子会社管理規程」に基づき、子会社の取締役等の職務の執行状況及び報告事項についての関係書類を子会社より提出を求め、月1回開催する取締役会にて報告する。

###### b. 子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

・リスクマネジメント責任者を設置し、子会社においてリスクが顕在化した場合には当社管理部と連携して対策にあたる。

・内部監査計画書に基づく全社的な内部統制項目を、監査役が毎年子会社を訪問し、リスク管理体制等についての問題点の把握に努める。

###### c. 子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

子会社は独自に中期経営計画書を作成し、経営の自主性および独立性を尊重して運営にあたる。執行状況は毎月当社に報告する。問題点があれば、当社は取締役会にてその要因の分析とその改善を図る。

- d. 子会社の取締役等および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
  - ・ 当社の社是及び経営の基本方針に基づき、子会社にも社会的な要請に応える適法かつ公正な事業活動に努める体制を構築させる。
  - ・ 監査役が内部統制システムの構築・運用状況を含め、職務執行を監査する体制を構築する。
6. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項  
監査役が必要とした場合は、監査役の職務を補助すべき使用人を置く。
7. 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項  
取締役からの独立性を確保するため、監査役会の同意を得て、当該使用人の任命・異動等を行う。
8. 監査役がその職務を補助すべき使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項  
監査役がその職務を補助すべき使用人に対し、監査役の指揮命令に従う旨を当社役員および使用人に周知徹底する。
9. 次に掲げる体制その他の当社の監査役への報告に関する体制
  - a. 当社の取締役および使用人が監査役に報告するための体制
    - ・ 取締役は、その執行状況について、取締役会等の重要会議を通じて監査役に定期的に報告を行うほか、必要の都度、遅滞なく報告する。
    - ・ また、取締役および使用人は毎月行われる部門診断において、その職務の執行状況について報告する。
  - b. 子会社の取締役・監査役等および使用人又はこれらの者から報告を受けた者が当社の監査役に報告するための体制
    - ・ 子会社の役員および使用人は、当社監査役から業務執行に関する事項について報告を求められたときは、速やかに適切な報告を行う。
    - ・ 子会社の役員および使用人は、法令等の違反により著しい損害を及ぼす事実を発見したら、当社の経営企画室へ報告する。
    - ・ 経営企画室は、定期的に当社監査役に対して、子会社におけるコンプライアンス、リスク管理等の現状を報告する。
    - ・ 経営企画室は、子会社の内部通報の状況について、通報者の匿名性を重視し取締役及び監査役に対して報告する。
10. 監査役へ報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制  
当社は、監査役への報告を行った役員および使用人に対して、当該報告をしたことを理由に不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を全役員および使用人に徹底する。
11. 監査役がその職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項  
監査役からの職務の執行についての費用の前払い等の請求があった場合は、審議の上、職務上必要で無いことを証明した場合を除き、当該費用又は債務を支払うこととする。
12. その他監査役がその職務を補助すべき使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項  
監査役は重要な意思決定について、業務の執行状況を把握するため、取締役会及び重要な会議に出席するとともに、稟議書並びに各部門の業務報告書類の回付を受け、必要に応じてヒアリングを行う。また、取締役の業務執行について独立した立場から適法性の監査を実施する。なお、監査役は、会計監査人と適宜情報交換を行う。

#### ・リスク管理体制の整備の状況

当社では業務全般に諸規程が整備され、各職位が明確な権限と責任を持って業務が遂行されており、監査役・内部監査委員会（10名）によるモニタリングが実施されております。

法務リスク管理については、各種契約をはじめとした法務案件全般については、管理部で一元管理しております。重要な契約書等については、原則として、顧問弁護士に確認を受けることとしており、不測のリスクを回避するよう努めております。

#### 内部監査、監査役監査及び会計監査の状況

内部監査については、当社の内部統制を統括する代表取締役社長の直轄機関である内部監査委員会が、年間監査計画に基づき、法令遵守、リスク管理、内部統制システムの運用状況等、業務全般にわたり監査を実施し、独立した立場から組織の内部管理体制の適正を客観的評価しております。

監査役監査は、常勤監査役が中心となり、取締役会、各種会議に出席しており、取締役の職務執行を十分に監視できる体制となっております。また、内部監査担当部門と連携を密にして、コンプライアンスの状況を含め随時必要な監査を実施しております。

会計監査については、有限責任監査法人トーマツを会計監査人としており、各四半期、期末に偏ることなく、期中においても適宜監査を受けております。

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、陸田雅彦氏及び中村 剛氏であり、会計監査業務に係る補助者は、公認会計士3名、その他4名であります。

監査役、内部監査委員会及び会計監査人は、それぞれの年間計画、監査報告書の閲覧や監査報告会等を通じて総務、経理等の部門の監査結果の情報の交換を行い、相互の連携を密にして内部統制機能の向上に努めております。

これらの監査については、取締役会等を通じて内部統制部門の責任者に対して適宜報告されております。

#### 社外取締役及び社外監査役

当社の監査役は、3名のうち2名が社外監査役であり、客観的な立場での監督機関として機能しております。

当社において、社外取締役又は社外監査役を選任するための当社からの独立性について、特段の定めはありませんが、専門的な知見に基づく客観的かつ適切な監督又は監査といった機能及び役割が期待され、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことを基本的な考え方として、選任しております。

小栗 巖氏は、税理士であり、専門的な見地からの評価、アドバイスを受けております。有限会社小栗経営会計事務所の代表取締役であり、当社は、同氏に税務顧問を依頼しております。当社株式を28千株所有しております。なお、上記以外に当社と同氏の間特別な利害関係はありません。同氏は証券取引所が規定する独立役員の要件をすべて満たしており、一般株主との間に利益相反が生じるおそれがないと判断して、独立役員として届出しております。

板尾昌之氏は、株式会社板尾鉄工所の代表取締役であり、販売取引関係がありますが、取引条件は他の取引先と同様であります。同氏は建設機械業界に長年携わられた経験や企業経営者として高い見識を有し、業界の状況にも精通しており、客観的な経営監視が可能と考えております。なお、上記以外に当社と同氏の間特別な利害関係はありません。同氏は証券取引所が規定する独立役員の要件をすべて満たしており、一般株主との間に利益相反が生じるおそれがないと判断して、独立役員として届出しております。

当社は社外取締役を選任しておりません。当社は、経営の意思決定機能と業務執行機能を持つ取締役会に対し、上記経験豊富な社外監査役を選任することで、経営の監視機能を強化しております。コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、現体制において外部からの経営監視機能が充分機能しております。

#### 役員報酬等

##### イ．役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)		対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	退職慰労金	
取締役	63,432	56,800	6,632	7
監査役 (社外監査役を除く)	6,144	5,640	504	1
社外役員	1,452	1,320	132	2

##### ロ．使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

##### ハ．役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額  
10銘柄 976,818千円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的  
前事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)	保有目的
(株)小松製作所	326,448	735,160	取引関係等の強化のため。
(株)北國銀行	190,000	64,980	取引関係等の強化のため。
トピー工業(株)	124,455	21,530	取引関係等の強化のため。
(株)ニチダイ	18,880	12,064	取引関係等の強化のため。
ダイハツディーゼル(株)	11,000	7,392	取引関係等の強化のため。
(株)T & Dホールディングス	400	487	取引関係等の強化のため。

当事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)	保有目的
(株)小松製作所	331,036	801,438	取引関係等の強化のため。
(株)北國銀行	190,000	82,650	取引関係等の強化のため。
トピー工業(株)	131,308	37,816	取引関係等の強化のため。
(株)ニチダイ	19,811	14,224	取引関係等の強化のため。
ダイハツディーゼル(株)	11,000	8,096	取引関係等の強化のため。
(株)T & Dホールディングス	400	693	取引関係等の強化のため。

ハ．保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額  
該当事項はありません。

取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、株主総会において、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

中間配当の決定機関

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年10月31日を基準日として中間配当をすることができる旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。



( 2 ) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	19,200	-	19,200	-
連結子会社	-	-	-	-
計	19,200	-	19,200	-

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社は、当社の事業規模の観点から合理的な監査日数を勘案し、監査公認会計士等に対する監査報酬額を決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成26年5月1日から平成27年4月30日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成26年5月1日から平成27年4月30日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、監査法人が主催するセミナーへの参加等により、会計基準等の内容を適切に把握し、また、会計基準等の変更についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当連結会計年度 (平成27年4月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	3,569,573	2,627,661
受取手形及び売掛金	2,010,244	1,644,171
電子記録債権	158,644	276,061
有価証券	100,001	1,800,016
商品及び製品	278,195	250,642
仕掛品	135,440	111,830
原材料及び貯蔵品	107,580	101,791
繰延税金資産	98,639	89,524
その他	27,577	53,202
流動資産合計	6,485,897	6,954,902
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	2,367,616	2,017,687
減価償却累計額	1,191,494	1,277,921
建物及び構築物(純額)	1,176,121	739,765
機械装置及び運搬具	6,860,398	6,465,874
減価償却累計額	5,488,518	5,784,091
機械装置及び運搬具(純額)	1,371,880	681,782
土地	782,792	761,723
建設仮勘定	2,242	50,598
その他	485,848	473,019
減価償却累計額	407,940	441,985
その他(純額)	77,907	31,033
有形固定資産合計	3,410,945	2,264,903
<b>無形固定資産</b>		
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1,003,628	1,106,898
関係会社株式	182,902	195,644
長期貸付金	93,971	94,738
その他	216,898	211,901
貸倒引当金	26,878	14,378
投資その他の資産合計	1,470,521	1,594,803
固定資産合計	5,108,635	3,863,034
資産合計	11,594,533	10,817,936

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当連結会計年度 (平成27年4月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	316,361	250,432
1年内返済予定の長期借入金	84,860	84,000
リース債務	3,733	2,734
未払金	388,972	219,599
未払法人税等	119,815	135,060
賞与引当金	180,448	165,105
その他	34,190	135,926
流動負債合計	1,128,383	992,857
固定負債		
長期借入金	-	159,000
リース債務	3,286	552
繰延税金負債	136,355	143,026
役員退職慰労引当金	215,067	219,212
退職給付に係る負債	176,961	172,041
その他	39,537	-
固定負債合計	571,208	693,832
負債合計	1,699,592	1,686,690
純資産の部		
株主資本		
資本金	592,000	592,000
資本剰余金	464,241	464,241
利益剰余金	8,100,743	7,115,440
自己株式	6,364	6,547
株主資本合計	9,150,620	8,165,135
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	353,000	431,926
為替換算調整勘定	391,321	534,184
その他の包括利益累計額合計	744,321	966,111
純資産合計	9,894,941	9,131,246
負債純資産合計	11,594,533	10,817,936

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)
売上高	8,092,502	7,741,726
売上原価	4 6,547,436	4 6,236,937
売上総利益	1,545,065	1,504,789
販売費及び一般管理費	1 997,575	1 975,440
営業利益	547,490	529,348
営業外収益		
受取利息	4,157	6,628
受取配当金	19,749	21,854
為替差益	20,417	11,099
持分法による投資利益	16,050	16,522
助成金収入	6,952	-
その他	19,344	14,751
営業外収益合計	86,671	70,856
営業外費用		
支払利息	1,502	565
その他	144	389
営業外費用合計	1,646	955
経常利益	632,515	599,249
特別利益		
固定資産売却益	2 1,650	-
特別利益合計	1,650	-
特別損失		
固定資産除売却損	3 322	-
減損損失	-	5 1,190,671
特別損失合計	322	1,190,671
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	633,843	591,422
法人税、住民税及び事業税	254,852	286,876
法人税等調整額	623	5,121
法人税等合計	255,475	291,998
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失( )	378,367	883,420
当期純利益又は当期純損失( )	378,367	883,420

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失( )	378,367	883,420
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	95,465	78,926
為替換算調整勘定	139,390	142,863
その他の包括利益合計	43,925	221,789
包括利益	422,293	661,630
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	422,293	661,630
少数株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	592,000	464,241	7,824,258	6,324	8,874,175
当期変動額					
剰余金の配当			101,882		101,882
当期純利益			378,367		378,367
自己株式の取得				40	40
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	276,484	40	276,444
当期末残高	592,000	464,241	8,100,743	6,364	9,150,620

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	448,465	251,930	700,395	9,574,571
当期変動額				
剰余金の配当				101,882
当期純利益				378,367
自己株式の取得				40
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	95,465	139,390	43,925	43,925
当期変動額合計	95,465	139,390	43,925	320,370
当期末残高	353,000	391,321	744,321	9,894,941

当連結会計年度（自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	592,000	464,241	8,100,743	6,364	9,150,620
当期変動額					
剰余金の配当			101,882		101,882
当期純損失（ ）			883,420		883,420
自己株式の取得				182	182
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	985,302	182	985,484
当期末残高	592,000	464,241	7,115,440	6,547	8,165,135

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	353,000	391,321	744,321	9,894,941
当期変動額				
剰余金の配当				101,882
当期純損失（ ）				883,420
自己株式の取得				182
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	78,926	142,863	221,789	221,789
当期変動額合計	78,926	142,863	221,789	763,695
当期末残高	431,926	534,184	966,111	9,131,246



## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	633,843	591,422
減価償却費	406,243	403,461
減損損失	-	1,190,671
賞与引当金の増減額( は減少)	8,252	15,343
貸倒引当金の増減額( は減少)	7,870	12,500
役員退職慰労引当金の増減額( は減少)	9,141	4,145
退職給付引当金の増減額( は減少)	167,262	-
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	176,961	4,920
受取利息及び受取配当金	23,907	28,483
支払利息	1,502	565
為替差損益( は益)	261	7,369
持分法による投資損益( は益)	16,050	16,522
有形固定資産売却損益( は益)	1,650	-
売上債権の増減額( は増加)	66,353	258,223
たな卸資産の増減額( は増加)	16,862	78,424
仕入債務の増減額( は減少)	42,070	67,404
その他	125,335	39,339
小計	1,103,653	1,152,188
利息及び配当金の受取額	27,965	32,026
利息の支払額	1,415	533
法人税等の支払額	162,175	272,337
法人税等の還付額	24,531	36
営業活動によるキャッシュ・フロー	992,560	911,379
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	3,135,000	135,000
定期預金の払戻による収入	3,135,000	1,635,000
有価証券の取得による支出	-	2,199,914
有価証券の償還による収入	150,000	599,951
有形固定資産の取得による支出	469,091	248,282
有形固定資産の売却による収入	1,764	2,777
無形固定資産の取得による支出	143,310	373
投資有価証券の取得による支出	143,475	113,821
その他	2,195	13,213
投資活動によるキャッシュ・フロー	606,308	446,449
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	-	250,000
長期借入金の返済による支出	135,060	91,860
リース債務の返済による支出	3,733	3,733
自己株式の取得による支出	40	182
配当金の支払額	102,336	102,035
財務活動によるキャッシュ・フロー	241,170	52,188
現金及び現金同等物に係る換算差額	22,532	40,969
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	167,613	558,087
現金及び現金同等物の期首残高	1,816,959	1,984,573
現金及び現金同等物の期末残高	1,984,573	2,542,661

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

- (1) 連結子会社の数 1社
- (2) 連結子会社の名称 共和機械(山東)有限公司

2. 持分法の適用に関する事項

- (1) 持分法を適用した関連会社の数 1社
- (2) 会社の名称 株式会社ネツレン小松

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の共和機械(山東)有限公司の決算日は12月31日であります。連結財務諸表作成にあたっては、仮決算を行い3月31日現在の財務諸表を作成し、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

(イ) 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)を採用しております。

(ロ) その他有価証券

時価のあるもの

期末決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

ロ たな卸資産

(イ) 製品・仕掛品・原材料

先入先出法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(ロ) 貯蔵品

最終仕入原価法を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産(リース資産を除く)

当社は定率法、在外連結子会社は定額法を採用しております。

(ただし、当社は、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については定額法を採用しております。)

なお、主な有形固定資産の耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 7～38年

機械装置及び運搬具 4～10年

ロ 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な無形固定資産の耐用年数は以下のとおりであります。

土地使用权 50年

自社利用のソフトウェア 5年

ハ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

売掛債権等の貸倒れに備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

ロ 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額を計上しております。

ハ 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に充てるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資であります。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(退職給付関係)

「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日）の改正に伴い、複数事業主制度に基づく退職給付に関する注記の表示方法を変更し、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

なお、連結財務諸表の組替えの内容及び連結財務諸表の主な項目に係る前連結会計年度における金額は当該箇所に記載しております。

(連結貸借対照表関係)

圧縮記帳により直接減額している固定資産は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当連結会計年度 (平成27年4月30日)
建物及び構築物	50,694千円	50,694千円
機械装置及び運搬具	42,286	42,286
土地	67,854	67,854
その他	3,723	3,723
計	164,558	164,558

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成25年5月1日 至平成26年4月30日)	当連結会計年度 (自平成26年5月1日 至平成27年4月30日)
荷造運搬費	316,998千円	296,210千円
給料及び手当	189,444	193,603
賞与引当金繰入額	33,108	29,780
退職給付費用	15,572	12,967
役員退職慰労引当金繰入額	11,891	7,288

2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成25年5月1日 至平成26年4月30日)	当連結会計年度 (自平成26年5月1日 至平成27年4月30日)
機械装置及び運搬具	1,650千円	-千円

3 固定資産除売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
機械装置及び運搬具	150千円	- 千円
その他	172	-
計	322	-

4 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、次のたな卸資産評価損（は戻入額）が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
	11,590千円	47,956千円

5 減損損失

当社グループは、管理会計上の区分及び投資の意思決定を基礎として継続的に収支の把握がなされている単位でグルーピングを実施しております。

(1) 中国での建設機械需要の低迷から、以下の子会社事業用資産において収益性の低下が生じたため、当社グループは当連結会計年度において、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（1,169百万円）として特別損失に計上しております。

場所	用途	種類	減損損失（千円）
中国山東省済寧市	事業用資産	建物及び構築物	382,630
		機械装置	574,181
		土地使用権	184,047
		その他	28,743
			1,169,602

なお、当資産グループの回収可能価額は、使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを9.2%で割引いて算定しております。

(2) 下記の資産については、当連結会計年度において売却の意思決定を行ったことに伴い、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

場所	用途	種類	減損損失（千円）
小松市日末町	事業用資産	土地	21,069

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、正味売却価額は売却可能価額により算定しております。

（連結包括利益計算書関係）

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	147,550千円	89,590千円
組替調整額	-	-
税効果調整前	147,550	89,590
税効果額	52,085	10,664
その他有価証券評価差額金	95,465	78,926
為替換算調整勘定：		
当期発生額	139,390	142,863
その他の包括利益合計	43,925	221,789

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成25年5月1日至平成26年4月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	6,800	-	-	6,800
合計	6,800	-	-	6,800
自己株式				
普通株式	7	0	-	7
合計	7	0	-	7

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成25年7月19日 定時株主総会	普通株式	101,882	15	平成25年4月30日	平成25年7月22日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年7月24日 定時株主総会	普通株式	101,882	利益剰余金	15	平成26年4月30日	平成26年7月25日

当連結会計年度（自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日）

1．発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数（千株）	当連結会計年度増 加株式数（千株）	当連結会計年度減 少株式数（千株）	当連結会計年度末 株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	6,800	-	-	6,800
合計	6,800	-	-	6,800
自己株式				
普通株式	7	0	-	8
合計	7	0	-	8

（注） 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2．配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当 額（円）	基準日	効力発生日
平成26年 7月24日 定時株主総会	普通株式	101,882	15	平成26年 4月30日	平成26年 7月25日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成27年 7月23日 定時株主総会	普通株式	101,878	利益剰余金	15	平成27年 4月30日	平成27年 7月24日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)
現金及び預金勘定	3,569,573千円	2,627,661千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	1,585,000	85,000
現金及び現金同等物	1,984,573	2,542,661

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

基幹システムのホストコンピュータ及び電話交換機(「工具、器具及び備品」)であります。

(イ)無形固定資産

基幹システムのソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項」の「(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

該当事項はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入による方針であります。なお、デリバティブ取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金、電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの与信限度管理規程等に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を1年ごとに把握する体制としております。

有価証券及び投資有価証券である株式及び債券は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式及び満期保有目的の債券であり、把握された時価が四半期ごとに決算内容とともに取締役会に報告されております。

営業債務である買掛金及び未払金は、1年以内の支払期日であります。

借入金は、固定金利にて調達した長期借入金(原則として3年以内)であり、主に設備投資に係る資金調達であります。

また、営業債務である買掛金、未払金及び借入金は流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、月次に資金繰り計画を作成するなどの方法により管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価格のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（注）2.参照）。

前連結会計年度（平成26年4月30日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)(*)	時価(千円)(*)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	3,569,573	3,569,573	-
(2) 受取手形及び売掛金	2,010,244	2,010,244	-
(3) 電子記録債権	158,644	158,644	-
(4) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	200,114	200,030	84
その他有価証券	871,615	871,615	-
(5) 買掛金	(316,361)	(316,361)	-
(6) 未払金	(388,972)	(388,972)	-
(7) 未払法人税等	(119,815)	(119,815)	-
(8) 長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む)	(84,860)	(84,856)	3

(\*)負債に計上されているものについては、( )で示しております。

当連結会計年度（平成27年4月30日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)(*)	時価(千円)(*)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,627,661	2,627,661	-
(2) 受取手形及び売掛金	1,644,171	1,644,171	-
(3) 電子記録債権	276,061	276,061	-
(4) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	1,900,096	1,900,204	108
その他有価証券	974,918	974,918	-
(5) 買掛金	(250,432)	(250,432)	-
(6) 未払金	(219,599)	(219,599)	-
(7) 未払法人税等	(135,060)	(135,060)	-
(8) 長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む)	(243,000)	(242,873)	126

(\*)負債に計上されているものについては、( )で示しております。



(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) 電子記録債権

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券については、私募債は元利金の合計額を信用リスクを勘案した利率で割り引いて算定し、それ以外の債券は取引所の価格又は債券の将来キャッシュ・フローを満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いて算定する方法によっております。また、譲渡性預金については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 買掛金、(6) 未払金、(7) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(8) 長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(1) 非上場株式（連結貸借対照表計上額31,900千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(2) 関係会社株式（連結貸借対照表計上額195,644千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載しておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（平成26年4月30日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	3,569,573	-	-	-
受取手形及び売掛金	2,010,244	-	-	-
電子記録債権	158,644	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
国債・地方債等	100,000	100,000	-	-
その他有価証券のうち満期があるもの 債券（社債）	-	30,000	-	-
合計	5,838,462	130,000	-	-

当連結会計年度（平成27年4月30日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,627,661	-	-	-
受取手形及び売掛金	1,644,171	-	-	-
電子記録債権	276,061	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
譲渡性預金	1,500,000	-	-	-
国債・地方債等	100,000	100,000	-	-
コマーシャルペーパー	200,000	-	-	-
その他有価証券のうち満期があるもの 債券（社債）	-	30,000	-	-
合計	6,347,893	130,000	-	-

4. 長期借入金の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度（平成26年4月30日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	84,860	-	-	-	-	-

当連結会計年度（平成27年4月30日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	84,000	84,000	75,000	-	-	-

（有価証券関係）

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度（平成26年4月30日）

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	100,001	100,010	8
	小計	100,001	100,010	8
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	100,112	100,020	92
	小計	100,112	100,020	92
合計		200,114	200,030	84

当連結会計年度（平成27年4月30日）

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	(1) 譲渡性預金	-	-	-
	(2) 国債・地方債等	200,131	200,240	108
	(3) コマーシャル ペーパー	-	-	-
	小計	200,131	200,240	108
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	(1) 譲渡性預金	1,500,000	1,500,000	-
	(2) 国債・地方債等	-	-	-
	(3) コマーシャル ペーパー	199,964	199,964	-
	小計	1,699,964	1,699,964	-
合計		1,900,096	1,900,204	108

2. その他有価証券

前連結会計年度（平成26年4月30日）

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	820,084	270,010	550,073
	小計	820,084	270,010	550,073
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	21,530	26,009	4,478
	(2) 債券 社債	30,000	30,000	-
	小計	51,530	56,009	4,478
合計		871,615	326,020	545,595

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額31,900千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度（平成27年4月30日）

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	944,918	309,733	635,185
	小計	944,918	309,733	635,185
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券 社債	30,000	30,000	-
	小計	30,000	30,000	-
合計		974,918	339,733	635,185

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額31,900千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(デリバティブ取引関係)

当社グループはデリバティブ取引は行っておりませんので、該当事項はありません。

## (退職給付関係)

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、退職金規程に基づく社内積立の退職一時金制度のほか、中小企業退職金共済制度に加入しております。

また、退職金制度の別枠で石川県機械工業厚生年金基金に加入しており、このうち、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができない制度については、確定拠出制度と同様に会計処理しております。

なお、石川県機械工業厚生年金基金は、厚生年金基金の代行部分について、平成27年1月1日付で厚生労働大臣より将来分返上の認可を受けております。

## 2. 簡便法を適用した確定給付制度

## (1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)	(自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)
退職給付に係る負債の期首残高	167,262千円	176,961千円
退職給付費用	37,654	29,551
退職給付の支払額	5,665	13,431
制度への拠出額	22,290	21,040
退職給付に係る負債の期末残高	176,961	172,041

## (2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(平成26年4月30日)	(平成27年4月30日)
積立型制度の退職給付債務	431,729千円	431,217千円
年金資産	254,768	259,176
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	176,961	172,041
退職給付に係る負債	176,961	172,041
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	176,961	172,041

## (3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度37,654千円 当連結会計年度29,551千円

## 3. 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、前連結会計年度43,882千円、当連結会計年度35,195千円であります。

## (1) 複数事業主制度の直近の積立状況

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(平成26年4月30日)	(平成27年4月30日)
年金資産の額	25,236,991千円	28,724,922千円
年金財政計算上の数理債務の額と 最低責任準備金の額との合計額(注)	24,768,125	28,347,660
差引額	468,866	377,262

(注) 前連結会計年度においては、「年金財政計算上の給付債務の額」と掲記していた項目であります。

## (2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

前連結会計年度 2.73% (平成26年3月31日現在)

当連結会計年度 2.74% (平成27年3月31日現在)

## (3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高(前連結会計年度2,675,423千円、当連結会計年度2,669,664千円)及び剰余金(前連結会計年度3,144,289千円、当連結会計年度3,046,926千円)であります。

本制度における過去勤務債務の償却方法は期間14年の元利均等償却であります。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当連結会計年度 (平成27年4月30日)
繰延税金資産(流動)		
賞与引当金	63,698千円	54,154千円
たな卸資産評価損	23,235	36,149
未払事業税	8,309	10,260
未払社会保険料	9,015	7,759
その他	5,235	3,567
繰延税金資産計	109,493	111,890
評価性引当額	6,546	18,363
繰延税金資産合計	102,946	93,526
繰延税金負債(流動)		
特別償却準備金	4,307	4,002
繰延税金負債計	4,307	4,002
繰延税金資産の純額	98,639	89,524
繰延税金資産(固定)		
ゴルフ会員権評価損	10,735	5,405
退職給付に係る負債	62,467	55,080
役員退職慰労引当金	75,918	70,148
減損損失	-	326,553
その他	34,658	49,001
繰延税金資産小計	183,780	506,188
評価性引当額	118,468	441,635
繰延税金資産合計	65,311	64,553
繰延税金負債(固定)		
特別償却準備金	9,072	4,320
その他有価証券評価差額金	192,595	203,259
繰延税金負債計	201,667	207,579
繰延税金負債の純額	136,355	143,026

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成26年4月30日)	当連結会計年度 (平成27年4月30日)
法定実効税率 (調整)	37.7%	税金等調整前当期純損失を計上しているため、注記を省略しております。
評価性引当額の増減	1.2	
その他	1.4	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	40.3	

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布されたことに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成27年5月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、前連結会計年度の35.3%から、回収または支払が見込まれる期間が平成27年5月1日から平成28年4月30日までのものは32.8%、平成28年5月1日以降のものについては32.0%にそれぞれ変更されております。

なお、この税率変更による影響額は軽微であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは建設機械用ボルトの製造・販売並びにこれらの関連業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位:千円)

	建設機械	自動車関連	産業機械	その他	合計
外部顧客への売上高	6,887,394	790,711	118,447	295,948	8,092,502

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

(単位:千円)

日本	中国	合計
2,396,008	1,014,937	3,410,945

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位:千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連する事業部門名
(株)小松製作所	1,695,559	建設機械用ボルト
コマツ物流(株)	870,221	建設機械用ボルト

当連結会計年度（自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	建設機械	自動車関連	産業機械	その他	合計
外部顧客への売上高	6,620,012	779,054	137,213	205,446	7,741,726

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

（単位：千円）

日本	中国	合計
2,264,903	-	2,264,903

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連する事業部門名
(株)小松製作所	1,712,088	建設機械用ボルト
コマツ物流(株)	805,171	建設機械用ボルト

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日）

当社グループは建設機械用ボルトの製造・販売並びにこれらの関連業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日）  
開示すべき事項はありません。

当連結会計年度（自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日）  
開示すべき事項はありません。

（1株当たり情報）

	前連結会計年度 (自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)
1株当たり純資産額	1,456.82円	1,344.43円
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額( )	55.71円	130.06円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)	当連結会計年度 (自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)
当期純利益金額又は当期純損失金額( ) (千円)	378,367	883,420
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額又は当期純損失金額( )(千円)	378,367	883,420
期中平均株式数(株)	6,792,153	6,791,910

(重要な後発事象)

該当事項はありません。



【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	84,860	84,000	0.5	-
1年以内に返済予定のリース債務	3,733	2,734	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	159,000	0.5	平成30年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	3,286	552	-	平成29年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	91,880	246,286	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	84,000	75,000	-	-
リース債務	552	-	-	-

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	2,085,260	4,108,955	6,071,618	7,741,726
税金等調整前四半期純利益金額又は税金等調整前当期純損失金額( )(千円)	198,036	368,474	539,059	591,422
四半期純利益金額又は当期純損失金額( )(千円)	121,135	216,420	288,807	883,420
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額( )(円)	17.84	31.86	42.52	130.06

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )(円)	17.84	14.03	10.66	172.59

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	3,341,775	2,413,868
受取手形	405,109	393,426
電子記録債権	158,644	276,061
売掛金	2 1,623,589	2 1,232,423
有価証券	100,001	1,800,016
商品及び製品	182,004	154,181
仕掛品	112,513	110,003
原材料及び貯蔵品	88,033	80,596
前払費用	547	603
繰延税金資産	93,404	85,957
その他	2 114,918	2 108,355
流動資産合計	6,220,541	6,655,495
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	1 699,652	1 658,585
構築物	1 98,713	1 81,180
機械及び装置	1 750,833	1 667,576
車両運搬具	14,949	14,205
工具、器具及び備品	1 46,824	1 31,033
土地	1 782,792	1 761,723
建設仮勘定	2,242	50,598
有形固定資産合計	2,396,008	2,264,903
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	5,772	2,953
電話加入権	266	266
水道施設利用権	120	107
無形固定資産合計	6,159	3,326
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1,003,628	1,106,898
関係会社株式	7,000	7,000
出資金	13,470	13,470
関係会社出資金	1,330,403	416,646
長期貸付金	93,971	94,738
長期前払費用	547	547
その他	80,383	73,793
貸倒引当金	26,878	14,378
投資その他の資産合計	2,502,524	1,698,715
固定資産合計	4,904,691	3,966,945
資産合計	11,125,233	10,622,441

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2 326,948	2 249,370
1年内返済予定の長期借入金	84,860	84,000
リース債務	3,733	2,734
未払金	2 380,485	2 212,586
未払費用	25,538	23,656
未払法人税等	119,815	135,060
預り金	2,592	2,654
賞与引当金	180,448	165,105
その他	897	103,531
流動負債合計	1,125,321	978,699
固定負債		
長期借入金	-	159,000
リース債務	3,286	552
繰延税金負債	136,355	143,026
退職給付引当金	176,961	172,041
役員退職慰労引当金	215,067	219,212
固定負債合計	531,671	693,832
負債合計	1,656,993	1,672,531
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	592,000	592,000
資本剰余金		
資本準備金	464,241	464,241
資本剰余金合計	464,241	464,241
利益剰余金		
利益準備金	148,000	148,000
その他利益剰余金		
特別償却準備金	24,522	17,379
別途積立金	7,200,000	7,400,000
繰越利益剰余金	692,840	97,089
利益剰余金合計	8,065,363	7,468,289
自己株式	6,364	6,547
株主資本合計	9,115,240	8,517,983
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	353,000	431,926
評価・換算差額等合計	353,000	431,926
純資産合計	9,468,240	8,949,910
負債純資産合計	11,125,233	10,622,441

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日)	当事業年度 (自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日)
売上高	1 7,733,098	1 7,477,852
売上原価	1 6,228,601	1 5,913,876
売上総利益	1,504,496	1,563,976
販売費及び一般管理費	2 921,023	2 872,537
営業利益	583,472	691,438
営業外収益		
受取利息	2,562	2,562
受取配当金	1 23,416	1 25,634
助成金収入	6,952	-
保険返戻金	5,914	-
その他	12,660	10,904
営業外収益合計	51,506	39,101
営業外費用		
支払利息	1,517	575
その他	73	-
営業外費用合計	1,591	575
経常利益	633,387	729,963
特別利益		
固定資産売却益	3 1,650	-
特別利益合計	1,650	-
特別損失		
固定資産除売却損	4 322	-
関係会社出資金評価損	-	5 913,756
減損損失	-	21,069
特別損失合計	322	934,825
税引前当期純利益又は税引前当期純損失( )	634,716	204,861
法人税、住民税及び事業税	254,852	286,876
法人税等調整額	5,691	3,453
法人税等合計	249,161	290,330
当期純利益又は当期純損失( )	385,554	495,191

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)		当事業年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
. 材料費		3,417,512	54.8	3,223,681	54.8
. 労務費	1	1,297,985	20.8	1,323,916	22.5
. 経費	2	1,525,091	24.4	1,335,945	22.7
当期総製造費用		6,240,588	100.0	5,883,543	100.0
期首仕掛品棚卸高		123,945		112,513	
合計		6,364,534		5,996,057	
期末仕掛品棚卸高		112,513		110,003	
当期製品製造原価		6,252,021		5,886,053	

原価計算の方法

原価計算の方法は、ロット別個別原価計算を採用しております。

(注) 1. 労務費の主な内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)	当事業年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
賞与引当金繰入額	147,340千円	135,325千円
退職給付費用	65,153	61,721

2. 経費の主な内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日)	当事業年度 (自 平成26年 5月 1日 至 平成27年 4月30日)
外注加工費	435,680千円	367,179千円
減価償却費	294,376	266,123
消耗品費	434,870	410,291

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成25年 5月 1日 至 平成26年 4月30日）

（単位：千円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			利益剰余金合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金			
				特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	592,000	464,241	148,000	20,615	6,800,000	813,076	7,781,691
当期変動額							
特別償却準備金の積立				12,456		12,456	-
特別償却準備金の取崩				8,548		8,548	-
別途積立金の積立					400,000	400,000	-
剰余金の配当						101,882	101,882
当期純利益						385,554	385,554
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	3,907	400,000	120,235	283,671
当期末残高	592,000	464,241	148,000	24,522	7,200,000	692,840	8,065,363

	株主資本		評価・換算差額等	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
当期首残高	6,324	8,831,608	448,465	9,280,073
当期変動額				
特別償却準備金の積立		-		-
特別償却準備金の取崩		-		-
別途積立金の積立		-		-
剰余金の配当		101,882		101,882
当期純利益		385,554		385,554
自己株式の取得	40	40		40
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			95,465	95,465
当期変動額合計	40	283,631	95,465	188,166
当期末残高	6,364	9,115,240	353,000	9,468,240

当事業年度（自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日）

（単位：千円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			利益剰余金合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金			
				特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	592,000	464,241	148,000	24,522	7,200,000	692,840	8,065,363
当期変動額							
特別償却準備金の取崩				7,143		7,143	-
別途積立金の積立					200,000	200,000	-
剰余金の配当						101,882	101,882
当期純損失（ ）						495,191	495,191
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	7,143	200,000	789,930	597,074
当期末残高	592,000	464,241	148,000	17,379	7,400,000	97,089	7,468,289

	株主資本		評価・換算差額等	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
当期首残高	6,364	9,115,240	353,000	9,468,240
当期変動額				
特別償却準備金の取崩		-		-
別途積立金の積立		-		-
剰余金の配当		101,882		101,882
当期純損失（ ）		495,191		495,191
自己株式の取得	182	182		182
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			78,926	78,926
当期変動額合計	182	597,256	78,926	518,330
当期末残高	6,547	8,517,983	431,926	8,949,910



【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)を採用しております。

関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

その他有価証券

時価のあるもの

期末決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

製品・仕掛品・原材料

先入先出法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

貯蔵品

最終仕入原価法を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については定額法)を採用しております。

なお、主な有形固定資産の耐用年数は以下のとおりであります。

建物 7~38年

機械及び装置 10年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売掛債権等の貸倒れに備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に充てるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

## (貸借対照表関係)

1 圧縮記帳により直接減額している固定資産は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
建物	49,045千円	49,045千円
構築物	1,648	1,648
機械及び装置	42,286	42,286
工具、器具及び備品	3,723	3,723
土地	67,854	67,854
計	164,558	164,558

2 関係会社に対する金銭債権及び債務には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
短期金銭債権	209,895千円	122,865千円
短期金銭債務	854	701

## (損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自平成25年5月1日 至平成26年4月30日)	当事業年度 (自平成26年5月1日 至平成27年4月30日)
営業取引による取引高	345,528千円	184,958千円
営業取引以外の取引による取引高	3,666	3,780

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成25年5月1日 至平成26年4月30日)	当事業年度 (自平成26年5月1日 至平成27年4月30日)
荷造運搬費	313,209千円	293,087千円
給料及び手当	171,743	167,956
賞与引当金繰入額	33,108	29,780
退職給付費用	15,572	12,967
役員退職慰労引当金繰入額	11,891	7,288
減価償却費	19,646	26,918
販売費に属する費用のおおよその割合	45%	44%
一般管理費に属する費用のおおよその割合	55	56

3 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成25年5月1日 至平成26年4月30日)	当事業年度 (自平成26年5月1日 至平成27年4月30日)
車両運搬具	1,650千円	-千円

4 固定資産除売却損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成25年5月1日 至平成26年4月30日)	当事業年度 (自平成26年5月1日 至平成27年4月30日)
構築物	172千円	-千円
機械及び装置	61	-
車両運搬具	89	-
工具、器具及び備品	0	-
計	322	-

5 関係会社出資金評価損

当事業年度の関係会社出資金評価損は、共和機械(山東)有限公司への出資金に係る評価損であります。

(有価証券関係)

関係会社株式及び関係会社出資金

関係会社株式及び関係会社出資金(当事業年度の貸借対照表計上額は関係会社株式7,000千円、関係会社出資金416,646千円、前事業年度の貸借対照表計上額は関係会社株式7,000千円、関係会社出資金1,330,403千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
繰延税金資産(流動)		
賞与引当金	63,698千円	54,154千円
たな卸資産評価損	16,688	17,785
未払事業税	8,309	10,260
未払社会保険料	9,015	7,759
繰延税金資産計	97,711	89,959
繰延税金負債(流動)		
特別償却準備金	4,307	4,002
繰延税金負債計	4,307	4,002
繰延税金資産の純額	93,404	85,957
繰延税金資産(固定)		
ゴルフ会員権評価損	10,735	5,405
退職給付引当金	62,467	55,080
役員退職慰労引当金	75,918	70,148
関係会社出資金評価損	-	292,401
減損損失	-	6,910
その他	8,533	6,970
繰延税金資産小計	157,654	436,916
評価性引当額	92,343	372,363
繰延税金資産合計	65,311	64,553
繰延税金負債(固定)		
特別償却準備金	9,072	4,320
その他有価証券評価差額金	192,595	203,259
繰延税金負債計	201,667	207,579
繰延税金負債の純額	136,355	143,026

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前事業年度 (平成26年4月30日)	当事業年度 (平成27年4月30日)
法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。	税引前当期純損失を計上しているため注記を省略しております。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成27年5月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、前事業年度の35.3%から、回収または支払が見込まれる期間が平成27年5月1日から平成28年4月30日までのものは32.8%、平成28年5月1日以降のものについては32.0%にそれぞれ変更されております。

なお、この税率変更による影響額は軽微であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	699,652	1,800	321	42,545	658,585	1,016,879
	構築物	98,713	622	-	18,155	81,180	188,032
	機械及び装置	750,833	115,687	229	198,714	667,576	5,522,566
	車両運搬具	14,949	8,931	2,753	6,920	14,205	48,297
	工具、器具及び備品	46,824	8,083	0	23,873	31,033	409,453
	土地	782,792	-	21,069 (21,069)	-	761,723	-
	建設仮勘定	2,242	112,758	64,402	-	50,598	-
	計	2,396,008	247,881	88,776	290,209	2,264,903	7,185,229
無形固定資産	ソフトウェア	5,772	-	-	2,819	2,953	21,166
	電話加入権	266	-	-	-	266	-
	水道施設利用権	120	-	-	13	107	372
	計	6,159	-	-	2,832	3,326	21,539

(注)「当期減少額」欄の( )は内数で、当期の減損損失計上額であります。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	26,878	-	12,500	14,378
賞与引当金	180,448	165,105	180,448	165,105
役員退職慰労引当金	215,067	7,288	3,143	219,212

(2)【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3)【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	5月1日から4月30日まで
定時株主総会	7月中
基準日	4月30日
剰余金の配当の基準日	10月31日 4月30日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://www.kyowakogyosyo.co.jp/">http://www.kyowakogyosyo.co.jp/</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利並びに株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第55期）（自 平成25年5月1日 至 平成26年4月30日）平成26年7月28日北陸財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成26年7月28日北陸財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第56期第1四半期）（自 平成26年5月1日 至 平成26年7月31日）平成26年9月12日北陸財務局長に提出

（第56期第2四半期）（自 平成26年8月1日 至 平成26年10月31日）平成26年12月12日北陸財務局長に提出

（第56期第3四半期）（自 平成26年11月1日 至 平成27年1月31日）平成27年3月13日北陸財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成26年7月28日北陸財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成27年 7月23日

株式会社共和工業所

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 陸田 雅彦 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中村 剛 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社共和工業所の平成26年5月1日から平成27年4月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社共和工業所及び連結子会社の平成27年4月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。



#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社共和工業所の平成27年4月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社共和工業所が平成27年4月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成27年 7月23日

株式会社共和工業所

取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 陸田 雅彦 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中村 剛 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社共和工業所の平成26年5月1日から平成27年4月30日までの第56期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社共和工業所の平成27年4月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。